

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3578100434		
法人名	社会福祉法人 友愛会		
事業所名	グループホーム阿東園		
所在地	山口県山口市阿東地福下286番地1		
自己評価作成日	平成27年8月22日	評価結果市町受理日	平成28年7月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた住み慣れた地域で、職員と利用者が協力し合い、ゆつくりと安心して過ごせるよう支援しています。利用者一人ひとりの思いをくみ取りながら、職員と一緒に家事(調理・洗濯物)、野菜作り、花植え等出来る事を支援し感謝の気持ちを伝えています。ウッドデッキや桜の木の下での食事やドライブ、しめ縄づくり、地域の祭りや行事に参加する他、毎月、先生を招き生け花を楽しんでいます。又、年1回「家族会」を開催し、職員との意見交換や家族間の交流を図り、楽しい一日を過ごしています。道の駅「長門峡」で開催されるもみじ祭りでは、利用者と家族、職員で協力して作成した品々を、ご家族の協力を得て、展示販売させて頂き、地域との繋がりをより一層深めていけるよう努めています。「ゆつくり・楽しく・和やかに」一人ひとりが明るく笑顔に満ち、安心安全な生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は地域の八幡宮祭りに出かけたり、足王神社祭りには家族、職員と一緒に出かけられている他、長門峡もみじ祭りのバザーで利用者の作品を家族の協力も得て販売し地域の人と交流されています。法人他施設で開催されている食事会への参加や近所のスーパーでの買物時や受診時などで顔見知りの人と挨拶を交わしたり会話をされている他、地域の人から手づくりのカステラや野菜の差し入れがあるなど、利用者が住み慣れた地域で生活できるように、家族や地域の人とのつながりを大切にされて支援に取り組んでおられます。家族から、利用者の好きな土いじりをさせたいという意見が出され、家族や地域の方の協力を得ながら、畑づくりやシイタケの駒うち、野菜やお茶づくりに取り組まれるなど、家族の意見や要望を活かされて、利用者の気持ちに添った支援がされています。介護計画に沿った支援状況を明確にするためにケース記録の様式を改善されたり、戸外用のテーブルやいすの購入、利用者の安全のために畑の煉瓦囲いを取り除かれるなど、職員の意見や提案を反映させて、サービスの質の向上に活かしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・楽しく・和やかに、住み慣れた地域で安心安全な生活が出来るように支援します」という理念に基づき実践している。ご家族には家族会や毎月の利用者の生活状況の中で伝えている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回の職員会議で管理者が職員に理念について説明し、職員は理解して共有し、理念に沿ったケアができるように取組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや行事に利用と共に参加している。足王様のお祭りには、家族、ボランティアの協力を得て、全員が参加した。	利用者は家族の協力を得て八幡宮の祭りや神社の祭りに参加したり、長門峡もみじ祭りのバザーで利用者の作品を家族の協力を得て販売し、地域の人と交流している。法人の夏祭りでボランティアや参加者、家族と交流している。法人の他施設が開催している食事会に利用者も参加し、地域の人たちと会話をしている。受診時など外出先で顔見知りの人と出会い挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。地域の人から手づくりのカステラや野菜の差し入れがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内での実践を踏まえて、地域に発信している。秋には、地域の行事のバザーで、職員、家族と協力して作成した作品を展示し、販売にも家族に参加して頂き、地域の人と交流を深め貢献する。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を職員に説明し、自己評価表を、前もって全職員に配布し、職員が項目を分担して記入し、管理者がまとめている。外部評価の結果を踏まえ、改善に取り組んでいる。	自己評価は、管理者が職員に評価の意義について説明し、評価をするための書類を全職員に配布し、項目を分担して記入したものを管理者がまとめ、職員会議で話し合っている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を作成し、ケース記録をケアプランに沿った記録ができるよう様式を改善するなど、評価を活かして取り組んでいる。全職員が評価の意義と項目の理解ができているとは言えない。	・評価の意義と項目の理解

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、地域より民生委員、老人クラブ会長、婦人会長、他施設の職員、市職員、家族代表の方々に出席して頂き、行事、活動報告・行事予定利用者の状況報告・待機者状況・ヒヤリハットを報告し、意見交換している。そして、要望、改善点をサービスの向上に活かしている。	会議は2ヶ月に1回開催し、状況報告、行事や活動報告、行事予定、ヒヤリハット・事故報告などを行い、意見交換や情報交換をしている。家族から、利用者の好きな畑仕事をするなどの提案があり、家族や地域の人の協力を得て、畑づくりや野菜づくり、しいたけ栽培を始めるなど、意見を活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、市職員の方に参加して頂く他、電話やFAX、出向いて相談する等、都度、助言や意見をもらい、情報交換する等、協力関係を築いている。	市担当者とは運営推進会議時の他、介護保険等書類提出や不明なことが生じた時に出向いたり、電話で相談して助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時の他、電話や出向いて情報交換をしたり、利用者についての相談をし助言を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内研修(年2回)において、全ての職員が身体拘束について正しく理解しており、抑制や拘束をしない、安心安全な暮らしの支援に取り組んでいる。玄関は施錠せず、外出される場合は、思いに傾聴し、一緒に外に出て安心されるよう支援している。	全職員が法人研修で学び、身体拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて職員会議で話し合っている他、気になるところがあった場合には、職員同士で注意し合ったり、管理者が指導している。玄関は施錠をせず、外出したい人とは話を聞いたり、一緒に外に出かけるなど工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修(年2回)において、全ての職員が虐待防止について正しく理解しており、虐待のないケアを行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修において制度を学び、その重要性は理解しているが、学ぶ機会が少なく全職員の理解は乏しいと思う。学ぶ機会を作るよう努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、家族と一緒に読み合わせを行い、都度、確認しながら、不安や疑問点についてしっかりと説明し、理解・納得を得るようにしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書において、苦情受付担当者・苦情解決責任者・第三者委員・公的機関を明記し、苦情受付、処理手続きを定め、契約時に家族に説明し、施設内に掲示し周知している。又、月1回、家族から意見・要望を頂けるよう文書を送付している。	相談や苦情の受付体制や苦情処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。運営推進会議時や面会時、家族会(年1回)や誕生会などの来訪時、電話、毎月の送付書類受領書の意見・要望欄などで、家族からの意見や要望を聞いている。家族から利用者が好きな土いじりをさせたいとの意見が出て畑づくりを始め、車の運転や椎茸の駒うちなどに家族や地域の人の協力を得て、野菜、椎茸、お茶づくりに取り組むなど、意見を運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で、意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務において、意見や提案を出し合い運営に反映している。ソファやテーブルの位置を変えスムーズな動線を工夫している。	月1回の職員会議や日常業務の中で管理者は職員の意見や提案を聞いている。洗濯物干し竿の設置や浴場の警報ブザーの設置、戸外用のテーブルやいすの購入、安全のため畑のレンガ囲いの取り除きを行うなど、職員の意見や提案を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の適正な給料水準、労働時間の確保に努めやりがいを持って働けるよう労働条件や職場環境の整備に努めている。キャリアパス導入も予定している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、段階に応じて参加の機会を設けている。参加後は、情報の共有、スキルアップを図っている。法人内では年2回全職員が研修に参加し、内部では研修の復命の他、管理者が資料を掲示したり、個別に配布したり、働きながら知識を得る機会を提供している。	外部研修は情報を職員に伝え、実践者研修や中堅職員研修、弁論大会に勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は職員に復伝し、資料をコピーして職員に配布しているなど、情報を共有して働きながら知識を得る機会を提供している。法人研修は新人研修の他、年2回、身体拘束、事故防止、食中毒予防、感染症予防、接遇等について実施し全職員が受講している。内部研修は復伝研修、応急手当、ターミナルケアなどについて年5回実施している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や運営推進会議を通じて交流し、意見交換、情報交換を行い協力関係を築き、サービス向上に反映するよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でしっかりと情報収集し、本人が困っていることや不安に思っていることの理解に努め、安心して生活できる関係を築いている。本人の意向に添ったサービスが提供できるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期段階で、家族が不安に思っていることや要望等に耳を傾け、信頼関係を築いている。家族の意向に添ったサービスが提供できるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや家族との話し合いの中から、本人と家族が何を一番望んでいるかを見極め、他のサービスも同様に支援するよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に調理、洗濯物干し・畳み、掃除、畑仕事、茶摘み等、日々の生活の中で教えて頂くことも多く、協力し支え合いながら暮らしを共にする関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回生活状況を送付し、特に変わりごとのある時は随時電話連絡や面談をし、しっかりと話し合いながら、家族と共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ(故里めぐり)、他施設での食事、交流会、又、家族の協力を得て、帰宅・外出(墓参り・ドライブ)等の機会が多くあり、これまで大切にしてきた人や場所との関係が継続するよう支援している。	家族や親戚の人、近所の人々の来訪がある。家族が事業所の行事へ参加したり、慣れ親しんだ畑づくりを一緒にするなどの協力を得て支援している。法人他事業所での食事会、スーパーでの買物、受診などの外出時に馴染みの人と挨拶を交わしたり会話を楽しんでいる。ドライブでふるさとめぐりをしたり、自宅への立ち寄りや馴染みの風景の見物をしている。家族の協力を得ての帰宅、兄弟の家への訪問、墓参り、馴染みの美容院の利用、外食、外泊に出かけるなど馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、出来ないことは手伝ったり、優しい声を掛け合ったりして支え合っている。職員は情報を共有し、穏やかな生活が送れるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。これまでの関係性が継続するよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や行動から推察し、職員会議やカンファレンスで本人本位に検討している。	契約時に本人や家族から得た情報や、日々のかかわりの中での利用者の言葉や様子などをケース記録に記録している。計画作成担当者が毎月、ケース記録等を参考にして利用者ごとにまとめたものを基に、月1回の職員会議で話し合い、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員が利用者の表情から推し量り、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集し、これまでの生活歴、生活環境を把握し支援に役立てている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々に生活の中から、本人の好きな事、出来る事等を把握し、有する力が発揮できるよう、現状の把握に努めている。本人のペースで和やかに生活出来るよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認、反映し、3ヶ月に1回カンファレンスを行い、介護計画の見直しを行い、本人がより良くグループホームで過ごして頂けるよう介護計画を作成している。	本人や家族の思いや意向や、かかりつけ医、看護師、関係者の意見を参考にして、月1回の職員会議で、計画作成担当者を中心に話し合い介護計画を作成している。利用者を担当する職員を中心に毎月モニタリングを行い、3ヶ月毎に見直しをしている。状態に変化が生じた場合はその都度見直しを行い現状に即した介護計画を作成している。支援の取り組みを介護計画に沿って明確にするためにケース記録の様式を事業所内で検討し改善するなど工夫している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録にケアプランの実践状況を記入し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。職員間で情報共有する方法として、連絡帳も用いている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人を支える為の、その時々添った、より質の高いサービスが展開されるよう柔軟な支援やサービスも多様化に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で、地域の方々と意見を交わし地域の中で安全で豊かな生活が送れるよう努めている。馴染みの美容院等、本人の暮らしの中で必要な地域資源を把握し、生き生きとした生活が楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による毎週水曜日の往診の他、毎月専門医の回診、又、家族の希望があれば通院、受診の介助を行い、家族と情報を共有しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	全ての利用者が協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療がある他、週1回の看護師の健康管理がある。月1回精神科と皮膚科の往診、3ヶ月に1回眼科の受診、必要に応じて歯科の受診を支援している。家族の協力を得て4カ月に1回外科の受診支援をしている。かかりつけ医には健康状態連絡書を毎週FAXし、状態に変化が生じた場合も連絡して指示を受けているなど、医療機関や家族と情報を共有しながら、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日、利用者全員の体調の様子を夜勤状況表に記載しFAXしている。体調の変化がみられるときは、随時、電話やFAXで連絡をとり、かかりつけ医看護師来園時、細かな情報や気づきを伝え適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の心身、体調面の様子を医療機関に情報提供している。入院中は、電話や面会を行い、病院関係者と情報交換し、早めに退院できるように努めている。毎週水曜日の往診時には医師、看護師に何でも相談できる関係が築かれている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の事業所でできる対応について、入所契約時に家族に説明し、理解を得るよう話合っている。利用者の状態の変化に併せて、医師から説明があり、都度、家族と入院等を含め話し合いを重ねている。運営推進会議でも報告している。	契約時に本人や家族に事業所でできる対応について、移設も含めて説明し同意を得ている。実際に重度化した場合には、早い段階から家族、医師、看護師と相談し、全職員や関係者と話し合っ方針を共有して支援に取り組むこととしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	法人内での研修はもとより、事業所内でもマニュアルを作成し、緊急時の対応に努めている。事故・ヒヤリハット記録を取り、原因・今後の対策、注意点について話し合い、事故防止に繋げている。年1回救急訓練、年3回救急自主訓練を行う他、実践力を身につける為に定期的に訓練を行う予定にしている。	事例が生じた場合は事故・ヒヤリハット報告書に記録し法人に報告している他、原因や対応策について職員会議で話し合い、一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。マニュアルがあり、法人研修や内部研修で事故防止や緊急時の対応、応急手当等について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでに至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て、夜間想定を含む消防通報訓練を法人施設と連携し利用者も参加して実施している。事業所は、法人の宿直者、夜勤者との連携を図り、連絡体制を築いている。	年2回、法人他施設と連携し、消防署の協力を得て夜間想定を含んだ消火、通報、避難訓練を利用者も参加して実施している。法人の地域との連絡体制があり、事業所は法人の宿直者や夜勤者との連絡、連携を取り合うことにしている。運営推進会議で家族や地域メンバーから災害時の協力の申し出を受けているが、事業所として地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修で人格の尊重とプライバシーの確保について十分理解している。職員は月1回、自己チェックシートで自己評価し、利用者一人ひとりのプライバシーや人格を損ねないよう言葉かけや対応に取り組んでいる。	職員は、法人研修で学び人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。職員は月1回、自己チェックシートで自己評価を行って、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねない対応に取り組んでいる。言葉かけや対応で気になるところは管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表すことができるよう支援し、十分に意向を聞きながら、自己決定により物事が進めていけるよう働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースの生活を最優先し、その日の心身の状況に配慮しながら、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際には本人に確認し着替えの服を選んでいる。又、随時、美容師さんに来園して頂きヘアーカットしたり、家族と一緒に行きつけの美容院に行き、おしゃれを楽しんでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼の2食を事業所で手作りしている。利用者は、下ごしらえ、盛り付け等、出来る事を職員と一緒にやっている。中庭の畑で収穫した野菜等、旬の食材を使い、彩に配慮し、食事が楽しみなものとなるように支援している。	夕食は法人の配食を利用し、朝、昼の2食は畑で収穫した野菜や差し入れの食材をつかって事業所で調理している。利用者は下ごしらえや盛り付け、片づけなどできることを職員と一緒にしている。畑での野菜の収穫やお茶づくり、コロッケづくり、おやつづくり、梅やしそのジュースづくり、ボランティアの協力を得ての季節の弁当づくり、戸外でのランチやおやつなどの他、移動パン屋でのパンの購入、法人他事業所での食事会への参加、外食、家族の協力を得ての外食など、利用者が食事を楽しむことができるよう支援に取り組んでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、1日を通して栄養・水分が確保できるよう、食事内容、形態を工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの出来る力に応じ、見守りや介助で、口腔内の清掃保持に努めている。定期的に、義歯・歯ブラシ・歯磨きコップの消毒を行い不衛生にならないよう気を付けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握して声掛けのタイミングを工夫し、失敗を少なくするよう、トイレでの排泄に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、一人ひとりのタイミングを工夫した言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時にバナナ牛乳を勧めたり、食事に繊維質のもの(寒天・きのこ・野菜)を多く取り入れたり、又日々の生活の中で体を動かし、自然に排便があるよう工夫に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	行事日等を除き、毎日、14時から16時まで入浴できる。利用者の状態に合わせて、シャワー浴や清拭等の支援を行っている。 入浴したくない人には、声掛けのタイミングや、声掛けの方法を工夫し入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	毎日14時から16時を入浴時間として、週に3回入浴ができるように支援している。必要に応じて10時30分から11時30分も入浴できる。職員との会話を楽しんだり、歌を歌うなど、ゆっくり入浴できるように支援している。安全に配慮した2人態勢の支援や、入浴したくない利用者には職員が交代したり、声かけのタイミングを工夫するなど、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れや足のむくみがでる利用者には、昼食後暫く居室で体を休めて頂いている。夜間は安心して気持ちよく眠れるよう、日中、活動的に過ごすよう努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎週木曜日に薬局で薬を受け取り、職員2人でお薬手帳と薬を照らし合わせている。誤薬防止の為、名前、日付を利用者に声で伝え、飲み終えるまで確認している。お薬手帳で、一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量を理解している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や仕事としていた裁縫、料理、野菜作り、花植えを季節の行事と共に行い、昔を懐かしみ、達成感を味わっている。誕生会、生け花、カラオケ、お手玉、塗り絵、歌、回想法、かるた、新聞の読み聞かせ、体操、洗濯物干し、洗濯物畳等日々の生活の中で活躍できる場面を提供し、張り合いや喜びのある生活が送れるよう支援している。	誕生会、法人の夏祭り、クリスマス会、展示販売作品づくり、野菜の種まき、植付、収穫、シイタケの駒うち、花植え、調理の下ごしらえ、盛り付け、片づけ、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、裁縫、生花(月1回)、新聞の読み聞かせ、テレビの視聴、週刊誌を読む、歌を歌う、カラオケ、お手玉、かるた、ぬり絵、回想法、計算、ラジオ体操、リハビリ体操など、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、園外散歩や車での外出(故里めぐり、紫陽花めぐり、稲荷神社参拝、外食、足王神社参拝、桜花見)を行っている。家族の協力を得て、外出(墓参り、美容院、帰宅)出来るよう支援している。	花見(桜、リンゴ、紫陽花、紅葉)、ドライブ(ふるさとめぐり、鯉のぼり見物、SL見物、稲荷神社、足王神社参拝)、長門峡もみじ祭りへの参加、外食、法人行事への参加、家族の協力を得ての墓参りや外出、外泊、一時帰宅、馴染みの美容院の利用などの他、日頃から散歩やスーパーでの買物、戸外でのランチ、畑仕事など、家族や地域の人々と協力して出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり、預り金として保管し、買い物の時はお金を所持し使えるように支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添いながら、出来る限りの支援を行っている。身内から手紙が届いた際は電話でのやり取りを支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は気づきがあれば見直し、快適な生活が出来るよう支援している。その時期折々の写真や飾りつけ、窓からの景色等で季節を感じて頂ける居心地の良い生活空間を醸し出している。	玄関や食堂に季節の野の花を飾り、リビングからはウッドデッキのプランターの花を見ることが出来る。収穫した野菜を手にした利用者の笑顔やコロッケづくりをしている利用者の写真を壁面に飾っている。畑にはチシャやパセリなどを植え、大根の芽が出ている。廊下からも外の自然を感じることができ、開放感がある。室温や湿度、換気に配慮し、テレビやソファ、食卓、椅子などを配置したリビングで利用者はそれぞれの場所でのんびりと居心地よく過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性に配慮しながら、思い思いに過ごせるよう、テーブル、いす、ソファ等の配置を工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具、テレビ、衣類、日用品等、使い慣れたものや、馴染みの物を持ち込み、落ち着いて安心して過ごせるよう工夫している。居室には家族の写真や利用者の塗り絵、カレンダー、生け花等を飾り居心地の良い生活空間となっている。	ベッドやタンス、机、椅子、テレビ、ぬいぐるみ、日記帳、携帯電話など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、写真や生け花、造花、保育園児からのクリスマス飾りなどを飾っている。セントポーリアを育てている利用者もあり、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況に応じて、住環境(椅子の種類、テーブルの高さ等)を見直し、安全かつ自立した生活が送れるよう整備、工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム阿東園

作成日：平成 27 年 11 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	評価の意義の理解と活用 評価項目を分担し、評価した事、全職員が評価 の意義を理解していない。	全職員が全項目を自分なりの表現で評価 し、評価の意義と理解に努める。	・全職員に自己評価表の全てを配布する。 ・職員会議で話し合う	
2	14	職員を育てる取組み 各自の向上心が不足している	職員のスキルアップ 向上心を育む	・全職員が月1回の話し合いの場に於いて、司 会進行を務める ・全職員が月1回の話し合いの時、自施設内で の研修を提供する	1年間
3	36	災害対策 地域との協力体制が築かれていない	法人全体として協力体制を構築する	・施設長を中心に9月末を目標に協力体制を再 構築する	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。